

セルフビルド、リノベ、仲間を巻き込んで……、

作る過程も楽しむ30の物語。

海外編・LAに再び。

BRUTUS[®]

2016 5/15 特別定価 680円

BOOK in BOOK

SUBARUの
移動空間学

特別な場所を作る。



居住空間学 2016



玄関ドアを開くと、いきなりダイニング。壁にはささく受するアーティスト、ペアトリス・ウッドの自画像が。2階は子供部屋や寝室などのプライベート空間に。

光と影、緑やウッドが絶妙に混在する家。

Lauri Kranz

■ ミュージシャン、〈Edible Gardens LA〉創設者

香り高い花をつけた^{かんぼく}灌木や、マイヤーレモンにピーチなど果樹の間を通り抜けるとドアが現れる。「ようこそ!」。にこやかに迎え入れるローリは〈エディブル・ガーデンズLA〉を運営するオーガニック・ガーデナーだ。玄関を開けると目の前にダイニングテーブル? 「食卓を囲んで人が集うことが、私にはとても重要なんです」とローリ。

庭からもしだばかりのフルーツが盛られたテーブルの向かいには、木製のらせん階段が2階へと延びている。この家は1950年代に当初平屋として建てられた。海好きだった2代目の持ち主がらせん階段など船っぽいモチーフを加え、2階も増築した。ちなみにこのエリアは歴代の大物ミュージシャンが住んだ伝説の町、ローレル・キャニオン。プロの音楽家でもあるローリが、憧れの町で見つけたこの「ウッドの家」で家族と暮らし始めて1年半になる。

彼女が必要なものを引き出し、形にしたのが

〈RTRホーム〉のインテリアデザイナー、ルース・ブラックだ。使われていなかった暖炉を修復し、周りのタイルもヴィンテージを探して丁寧に張り替えた。そして元から多用されていたウッドも壁や家具でさらに増やし、自然との一体感を常に味わえるように。穏やかで和める空間になっているのは、木の質感が光をうまく吸収するからか。デザイン好きに評判の家具屋〈ブラックマン・クルズ〉のオーナーも古い友人で、大いに力になってくれた。またオンラインの「1stdibs」で購入した屋外の丸いダイニングテーブルは、売り主がオランダ在住。空輸に際し、ローリ側になるべく負担をかけないよう尽力してくれたとか。

オーガニック・ガーデンのプロデューサーは野菜を育てたり学校で食育するだけじゃない。食を通じ、デザインやクラフトなど他分野の仲間たちとの信頼関係も楽しく結ぶ。心ゆくまで和めるこの家を築くのは、友情と家族の愛情なのである。

Profile

ローリ・克蘭ツ

コネチカット生まれ。NYのウィリアム・モリス・エージェンシー勤務を経て音楽制作に携わる。映画音楽の仕事でLAに。2009年より〈エディブル・ガーデンズLA〉運営。セレブの自宅や学校、美術館などで引っ張りだこのオーガニック・ガーデナー。<http://ediblegardensla.com/>





玄関付近。「帰宅すると木々や花が迎えてくれるのが、毎日たまらなく幸せですね」。自宅でも野菜や果物を栽培。その日の収穫が4人家族の食卓に毎日上る。



家の中で特に気に入った空間を寝室に。ベッドの上にはウォールハンギング。「陶芸家Heather Levineのスタジオで出会った瞬間、これをあの部屋に飾ろう！」と。



暖炉の周りには、天井のパネルだったウッドを張った。当時7歳の次男坊が、店で「ママ、この椅子が合うんじゃない？」と勘で選んだイームズチェアともマッチ。



書斎。棚に並ぶボウル群はすべてLA出身の陶芸家Victoria Morrisが〈Edible Gardens LA〉のために制作したものだ。「色鮮やかで、温もりがあって個性的」と。